

施策の方向性について

- ①-1. 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備
- ①-2. 公平でわかりやすい入学者選抜の改善
- ②-1. 社会のリーダー層やグローバル人材に必要な資質・能力の育成
- ②-2. 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる学習メニューの提供
- ②-3. 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成
- ②-4. 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供
- ③-1. キャリア教育の推進とチャレンジ精神の育成
- ③-2. 自立を支援する教育カリキュラム
- ④. つながりをはぐくむ学校づくり
- ⑤. 学習環境の整備

①ー1. 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備

視点

- 今後の生徒数減少を踏まえた府立高校の適正配置のあり方を検討
- 活力ある学校づくりのための適正な学校規模の考え方を整理

①ー2. 公平でわかりやすい入学者選抜の改善

視点

- 授業料無償化等による公私間の生徒流動化に対応した入学者選抜制度の見直し
- 制度改善の周知と円滑な実施

⇒ 第3回にて検討

②-1. 社会のリーダー層やグローバル人材に必要な 資質・能力の育成

視点

- 国際化・経済のグローバル化が進む中、世界経済における日本の相対的な地位が低下
- アジア各国の若者が海外へ活動の場を広げる中、我が国の若者は、内向き志向が強いという傾向
- 国際化・グローバル化の進展に対応し、リーダーシップが発揮できる人材の育成が求められる

<現在の取組>

進学指導特色校(GLHS)

府指定

➤ 進学指導特色校(グローバルリーダーズハイスクール(GLHS))の理念とは・・・

- ・これからの社会のリーダーとして活躍する人材を育成すること。
- ・「普通科」、「専門学科」併置のメリットを最大限生かして、生徒どうしが互いに切磋琢磨できる学習環境の創出を図ること。
- ・10校が、これまでの伝統や実績を生かし、それぞれの特色に応じた教育活動を実現して、一層個性豊かに輝くこと。

➤ 取組内容について

○実施期間:平成23年度～(3年間)

- ・10校ネットワークシステム(学習や進路に関する情報を共有するイントラネット)の整備
- ・学力診断共通テストの実施
- ・GLHS合同発表会
- ・京都大学や大阪大学との連携
- ・アルバータ大学(カナダ)への生徒派遣研修
- ・科学系オリンピック対策合同勉強会(数学・物理・化学・生物)
- ・海外のトップリーダー校との交流とネットワークづくり
- ・授業力向上研修の実施
- ・教育環境の充実(多目的教室・プロジェクタ等) など

※進学指導特色校の検証は、別途、事業評価委員会で実施。

<進学指導特色校>

- | | | | | |
|-----|------|-----|------|------|
| ○北野 | ○豊中 | ○茨木 | ○大手前 | ○四條畷 |
| ○高津 | ○天王寺 | ○生野 | ○三国丘 | ○岸和田 |

➤ スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは・・・

- ・将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数系教育等を実施。
- ・カリキュラム開発や課題研究、実験・観察等を通じた体験的・問題解決的な学習を実施。
- ・実施期間:5年間
- ・文部科学省による指導・助言・評価の実施。
- ・平成24年度は全国で178校指定(大阪は14校指定、うち府立高校は12校)。
- ・SSH指定校の理数系教育における中核としての機能強化(コアSSH)
:平成24年度は全国で41校指定(大阪は2校指定)。
- ・研究開発費用:1校当たり年間約10,000千円

➤ 主な取組内容について

- ・大学や研究施設、地域の小中学校との連携
- ・科学コンテストやコンクールへの参加
- ・英語による表現能力の育成
- ・海外の学校との共同研究や国際科学会議の実施 など

<府立高校におけるSSH指定校;12校>

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| ○天王寺(H16年度～) | ○泉北(H18年度～) | ○住吉(H19年度～) |
| ○大手前※(H20年度～) | ○高津※(H20年度～) | ○三国丘(H21年度～) |
| ○豊中(H22年度～) | ○生野(H22年度～) | ○千里(H22年度～) |
| ○岸和田(H23年度～) | ○四條畷(H24年度～) | ○園芸(H24年度～) |

※印はH24年度コアSSH

➤ イングリッシュ・フロンティア・ハイスクールズ(EFHS)とは・・・

- ・24校を研究指定校として、各校の到達目標を設定し、確かな学力を育むことに加え、英語コミュニケーション能力のさらなる向上をめざす取組を実施。

＜到達度＞ レベル1	・・・断片的な単語でのコミュニケーション	} ⇒	G1	
レベル2	・・・簡単な会話の理解			
レベル3	・・・通常会話での支障のない応答			⇒ G2
レベル4	・・・通常会話の完全理解、素早い応答			⇒ G3

- ・実施期間：平成23年度～(3年間)

➤ 取組内容について

- ・指導法の研究
- ・英語特設講座等の開設
- ・Osaka English Forumの開催
- ・語学用学習機器の活用
- ・話せる英語が使える教材作りの実施
- ・外国人講師の各校への派遣

＜EFHS研究指定校；24校＞

G3【5校】

○箕面 ○和泉 ○千里 ○住吉 ○泉北

G2【9校】

○旭 ○枚方 ○牧野 ○夕陽丘 ○花園 ○長野 ○佐野 ○槻の木 ○鳳

G1【10校】

○東淀川 ○豊島 ○茨木西 ○吹田 ○茨田 ○交野 ○山本 ○東百舌鳥 ○岬 ○松原

②ー2. 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる 学習メニューの提供

視点

- 高校進学率は年々上昇し、中学校卒業後の進路として大半が進学するという現状の中で、生徒一人ひとりの「学びの支援」と「進路保障」を充実
- 公私間の流動化が起こる中で、中学生・保護者に選ばれる学校をめざし、多様なニーズに応える「魅力ある学校づくり」を進める
- そのために、これまでの特色づくりの検証や現状を踏まえた学習メニューの提供を検討

<特色ある高校>

	学校のタイプ	学校数	学校名 ※()内はH24募集人員	募集人員 (H24)
1	総合学科高校	10校	柴島(280)、今宮(240)、能勢(80)、千里青雲(280)、芦間(240)、枚岡樟風(240)、八尾北(240)、松原(280)、堺東(280)、貝塚(280)	2,440人
2	普通科総合選択制高校	19校	東淀川(280)、豊島(280)、福井(200)、北摂つばさ(240)、大正(200)、北かわち皐が丘(240)、枚方なぎさ(280)、門真なみはや(280)、緑風冠(280)、西成(200)、かわち野(240)、みどり清朋(280)、八尾翠翔(240)、金剛(280)、懐風館(240)、成美(240)、伯太(280)、日根野(240)、りんくう翔南(240)	4,760人
3	工科高校	9校	淀川工科(320)、西野田工科(320)、今宮工科(280)、茨木工科(320)、城東工科(320)、布施工科(320)、藤井寺工科(320)、堺工科(320)、佐野工科(280)	2,800人
4	クリエイティブスクール	6校	成城(200)、東住吉総合(240)、咲洲(200)、和泉総合(240)、桃谷(160)、箕面東(240)	1,280人
5	夜間定時制高校	15校	大手前(80)、桜塚(80)、春日丘(120)、寝屋川(120)、布施(120)、三国丘(120)、桃谷(80)、西野田工科(80)、今宮工科(80)、茨木工科(80)、藤井寺工科(120)、堺工科(80)、佐野工科(120)、成城(80)、和泉総合(80)	1,440人
6	国際・科学高校	3校	住吉(280)、千里(320)、泉北(280)	880人
7	全日制普通科単位制高校	4校	市岡(320)、長吉(240)、槻の木(240)、鳳(360)	1,160人
8	通信制高校	1校	桃谷(650)	650人

※クリエイティブスクール、夜間定時制高校、通信制高校の募集人員には、編転入学による受入れ数を含む。

<これまでの特色づくりの検証>

1. 総合学科高校

➤ 理念

- 普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの選択科目を設定し、生徒自ら科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐくむ学校として「総合学科」を設置する。

➤ 特色

- 普通科目と専門科目にわたる多様な科目の設定
- 多様な選択科目を設置し、選択の目安としての「系列」を設定
- 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育の充実

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

- 高い志願倍率 (H20~24) ⇒ 平均1.5倍前後
- 高い女子割合 (H19→23) ⇒ 入学者の66.2% → 67.8%

■ 部活動加入率 ■

- (H18→23) ; 48.0% → 61.9%

■ 中退率 ■

- (H18→22) ; 2.6% → 1.2%

■ 進路状況 ■

- (H18→22) ; 「大学」の増加 (28.1→36.2%)
- 「短大」の減少 (13.7→11.2%)
- 「専門学校等」の増加 (25.5→28.5%)
- 「就職」の減少 (16.4→13.1%)
- 進路未定者を含む「その他」の減少 (16.3→11.0%)

2. 普通科総合選択制高校

➤ 理念

- 普通科の中で選択科目を多く設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習を通じて、進路実現の力をはぐくむ学校として「普通科総合選択制」を設置する。

➤ 特色

- 基礎学力の充実
- 「エリア」の設置による、興味・関心にあった学習の展開
- 多様なエリア指定科目・自由選択科目の開設
- 進路実現の力の育成

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

- 高い志願倍率（H20～22） ⇒ 1.5倍前後
- 後期選抜移行後、普通科平均を下回る ⇒ 0.90倍（H23）、1.07倍（H24）

■ 部活動加入率 ■

- （H18→23）；47.8% → 48.8%

■ 中退率 ■

- （H18→22）；3.9% → 1.6%

■ 進路状況 ■

- （H18→22）；

「大学」の減少	(37.8→32.4%)
「短大」の減少	(18.1→11.6%)
「専門学校等」の増加	(27.9→29.9%)
「就職」の増加	(8.1→15.0%)
進路未定者を含む「その他」の増加	(8.0→11.2%)

3. 工科高校

➤ 理念

- 産業構造の変化や技術の複合化などに柔軟に対応できる幅広い知識や技術の基礎・基本を備えた将来のスペシャリストとなる人材育成をめざし、専門分野の深化と、高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続という2つの方向性を基本として、教育内容の充実を図るとともに再編整備を実施する。

➤ 特色

- 専門分野の〔深化〕と高度な専門性を身につけるための高等教育機関への〔接続〕
- 学科ごとの募集から総合募集へ；1年生で工業の基礎知識を学び、2年生からの系・専科で専門分野を幅広く学ぶとともに知識・技術・技能の深化を図る。

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

○ 高い志願倍率（H20～24） ⇒ 1.21～1.31倍で推移

■ 部活動加入率 ■

○（H18→23）；49.5% → 43.7%

■ 中退率 ■

○（H18→22）；9.3% → 3.9%

■ 進路状況 ■

○（H19→22）；	「大学」の減少	（13.8→10.2%）
	「短大」の増加	（1.2→1.9%）
	「専門学校等」の増加	（5.5→12.6%）
	「就職」の減少	（78.1→69.6%）
	進路未定者を含む「その他」の増加	（1.4→5.7%）

4. クリエイティブスクール

➤ 理念

- 生徒自ら学ぶ科目や時間帯を選択することにより目的意識を養い、進路目標に応じた多様な学習が可能となるよう、単位制で昼間の定時制のシステムを活用した、新しいタイプの学校として設置する。

➤ 特色

- 多様な生徒のニーズに対応した多様な学びの提供
- 自分の生活スタイルに合わせて学ぶ時間帯を選択
- 自分のペースに合わせて三修制または四修制を選択

※三修制・四修制 …
それぞれ3年間・4年間で卒業を予定する
カリキュラム

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

- (H20~24) ; 0.96~1.46倍で推移

■ 部活動加入率 ■

- (H23) ; 27.9% (I部・II部の合計)

■ 中退率 ■

- (H22) ; 9.2% (I部・II部の合計)

■ 進路状況 ■

- (H19→22) ; 「大学」の増加 (16.9→17.4%)
「短大」の減少 (8.3→ 5.8%)
「専門学校等」の増加 (19.1→22.4%)
「就職」の減少 (35.6→27.3%)
進路未定者を含む「その他」の増加 (20.1→27.1%)

5. 夜間定時制高校

➤ 理念

- 新しい夜間定時制の課程は、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。

➤ 特色

- 単位制を導入し、単位修得を支援する。
- 多様な選択科目を開設し、学習意欲や関心を高める。
- ガイダンス機能やカウンセリング機能の充実を図る。

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

- (H20~24) ; 0.54~0.87倍で推移
- 収容率 (H20~24) ; 62.6~102.1%で推移

■ 部活動加入率 ■

- (H23) ; 33.7%

■ 中退率 ■

- (H22) ; 13.8%

■ 進路状況 ■

- (H20→22) ; 「大学」の減少 (4.6→ 4.3%)
- 「短大」の増加 (2.1→ 2.6%)
- 「専門学校等」の減少 (9.6→ 8.7%)
- 「就職」の減少 (32.9→32.4%)
- 進路未定者を含む「その他」の増加 (50.9→51.9%)

6. 国際・科学高校

➤ 理念

- 国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や確かな国際理解の下に、科学技術、経済、文化等の分野において、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や、実験・実習を重視した授業展開などに特色を有する新たな専門高校として「国際・科学高校」を設置する。

➤ 特色

- 科学分野での実験・実習や語学分野での体験学習など、観て聴いて感じることを重視した教育を推進する。
- 英語・情報機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図ることとし、教科学習においても、英語の積極的な活用を図る。
- プレゼンテーションの手法を授業に積極的に取り入れ、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。
- 自国の文化とともに世界の国々の文化や歴史を理解し、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。
- 海外からの留学生を積極的に受け入れるとともに、海外への留学、語学研修、海外修学旅行など、海外における学習機会を充実する。
- 大学、研究機関などと連携した先進的な学習を推進する。
- 科学教育、語学・国際理解教育の取組みの成果を、府立高校全体に発信する。

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

- 高い志願倍率（H20～24） ⇒ 国際文化科；1.39～1.93倍で推移
⇒ 総合科学科；1.84～2.05倍で推移

■ 部活動加入率 ■ 83.3%（H23）

■ 中退率 ■ 0.1%（H22）

■ 進路状況 ■

- （H19→22）；「大学」の減少（67.2→65.6%）、「短大」の増加（2.9→3.3%）
「専門学校等」の増加（20.1→24.5%）、「就職」の減少（1.2→0.5%）
「その他」の減少（8.6→6.1%）

7. 全日制普通科単位制高校

➤ 理念

- 全日制の時間帯で、自分で学習計画を立て、自分にあった方法で、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばす学校として、「全日制普通科単位制高校」を設置する。

➤ 特色

- 生徒一人ひとりが自己の学習ペースに応じて、興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき学習内容を選択することを通して、主体的に学習する姿勢や創造的な個性、進路実現の力をはぐくむ。
- 全日制単位制の趣旨や特色を生かした教育課程を編成し、基礎学力の充実を図るとともに、進路実現にも対応できる多様な選択科目を設置する。
- 科目選択の参考としてモデルプランや「科目群」を設置する。また、科目の選択指導のため、ガイダンス機能を充実させる。
- 集中講座や前期後期ごとの単位認定など、単位制の利点を生かせるよう2学期制を実施する。
- 柔軟な単位制の教育システムを活用し、生徒の状況や進路希望などにあわせた教育課程を編成し、様々な教育活動を展開できる。

➤ 高校改革の進捗・検証

■ 志願倍率の推移 ■

- (H20~24) ; 1.54~1.84倍で推移

■ 部活動加入率 ■

- (H18→23) ; 49.0% → 66.7%

■ 中退率 ■

- (H22) ; 2.5%

■ 進路状況 ■

- (H18→22) ;
 - 「大学」の増加 (46.3→63.9%)
 - 「短大」の減少 (7.3→ 2.9%)
 - 「専門学校等」の減少 (16.1→ 9.4%)
 - 「就職」の減少 (11.9→ 5.1%)
 - 進路未定者を含む「その他」の増加 (18.3→18.7%)

< 専門コースの設置状況 (H24) >

設置年度	学校名	コース名
平成13年度	池田北	音楽
	平野	人間・環境
平成14年度	岬	海洋
平成16年度	岬	情報
平成18年度	阿武野	福祉
		スポーツ
	岸和田	理数 ⇒文理学科に移行
	布施北	デュアル ⇒デュアル総合学科に移行
	北野	SS(スーパーサイエンス) ⇒文理学科に移行
平成19年度	久米田	理数
		体育
平成22年度	北淀	造形
	泉尾	アクティブスポーツ
	茨田	コミュニケーション
	寝屋川	グローバルコミュニケーション
		グローバルサイエンス
	八尾	アドバンス・教育
	美原	体育
	富田林	Human Development
堺西	体育・芸術・創造表現	

設置年度	学校名	コース名
平成23年度	島本	保育
	吹田	こども未来
	枚方津田	英語専門
	交野	理数専門
		英語専門
	長尾	人文ステップアップ
	門真西	文化コミュニケーション
	阪南	アジア太平洋文化
	福泉	環境科学
		国際文化
信太	スポーツ科学	
平成24年度	高槻北	教志
	芥川	グローバル
	河南	エスペランサ
	東百舌鳥	看護医療
	泉大津	情報活用

< 要件 >

専門教科・科目を12単位以上設定

※デュアル ……地域の事業所等と連携した実習等を通じて、社会人基礎力を身に付け、社会の構成員として必要な力を備えた人材を育成。

※Human Development ……リーダーシップを発揮できる人間を育成するため、聞く話すに加えて「読解力」「論述力」を育成するとともに、実験を通じて「実証精神」「論理性」を育成する。

※人文ステップアップ ……国際化社会に適應できる幅広い視野を持つ生徒の育成をめざす。

※教志 ……教育体験的科目群、教育入門的科目群等を設定し、教育関係の仕事を目指すための入門・動機付けと資質を養う。

※エスペランサ ……豊かな教養が求められる「教職」をめざすため、幅広い学習に取組むカリキュラムを開設する。

②-3. 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成

視点

- 大阪には、「ものづくり」のまちとして、製造業の事業所が集積してきた実績
- 製造業をはじめとする大阪の産業基盤を担う人材を育成するために、実業系高校のあり方を検討

<現在の取組>

ものづくり教育コンソーシアム大阪

➤ 「ものづくり教育コンソーシアム大阪」とは・・・

・「『大阪の教育力』向上プラン」にもとづき、ものづくり教育をはじめとした産業教育の活性化のために、学識経験者、産業界、経済界等からなる「ものづくり教育コンソーシアム大阪」を組織し、工科高校におけるものづくり教育の活性化を推進する。

⇒○府立大学、府立高専参画による、工科高校との接続の拡充

○学識経験者、産業界等との交流の場の創設

・創設：平成21年度

・組織：学識経験者、産業界、経済界等

➤ 検討内容

(1)付加価値を生み出す技能を持つ人材の育成（企業への人材供給）

①技術・技能の向上を支える施設設備の整備

②企業連携による実践的スキル育成

③教員の技術・技能研修の推進

(2)先端的な技術力を持つ人材の育成（大学への接続）

①教育課程の改善・充実

➤ 今後の方向性

○大学進学のための「系」・「専科」の設置を検討

○工科高校の今までの取組を踏まえ、さらなる特色化をはかる など

※工科高校の特色づくりについては、別途、ものづくり教育コンソーシアムで検討。

その他実業系高校の取組事例

- **農業系**
 - ◆ バイオテクノロジーでササユリの新種開発の実施
 - ◆ ミツバチを利用した地域コミュニティづくりの実施
 - ◆ 企業と共同開発した「農芸ポーク」を商標登録
 - ◆ ふれあい移動動物園で地域貢献を実施
- **総合造形**
 - ◆ 大和川再生のシンボルとなる陶板画ストーリーづくりの実施
- **商業系**
 - ◆ 高大7年間を見据えた教育によるビジネススペシャリストの育成
 - ◆ 商業系学科で組織する「大阪市ビジネス教育推進委員会」の取組
 - ・英語によるビジネスプランコンテストの実施
 - ・スクールキャラクターの創造やコンビニ弁当などの企画・開発
- **工業系**
 - ◆ 「ものづくり」に関する知識・技術の向上に向け、高大連携協定を締結
 - ◆ 進学を見据え、専門性を高めるための「ものづくり教育」を推進
- **福祉系**
 - ◆ 卒業時に国家資格「介護福祉士」受験資格を取得
(5年連続合格率100%を達成)
- **食物系**
 - ◆ 卒業時に「調理師」免許を取得

※農業系・総合造形以外は市立の高校

②-4. 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供

視点

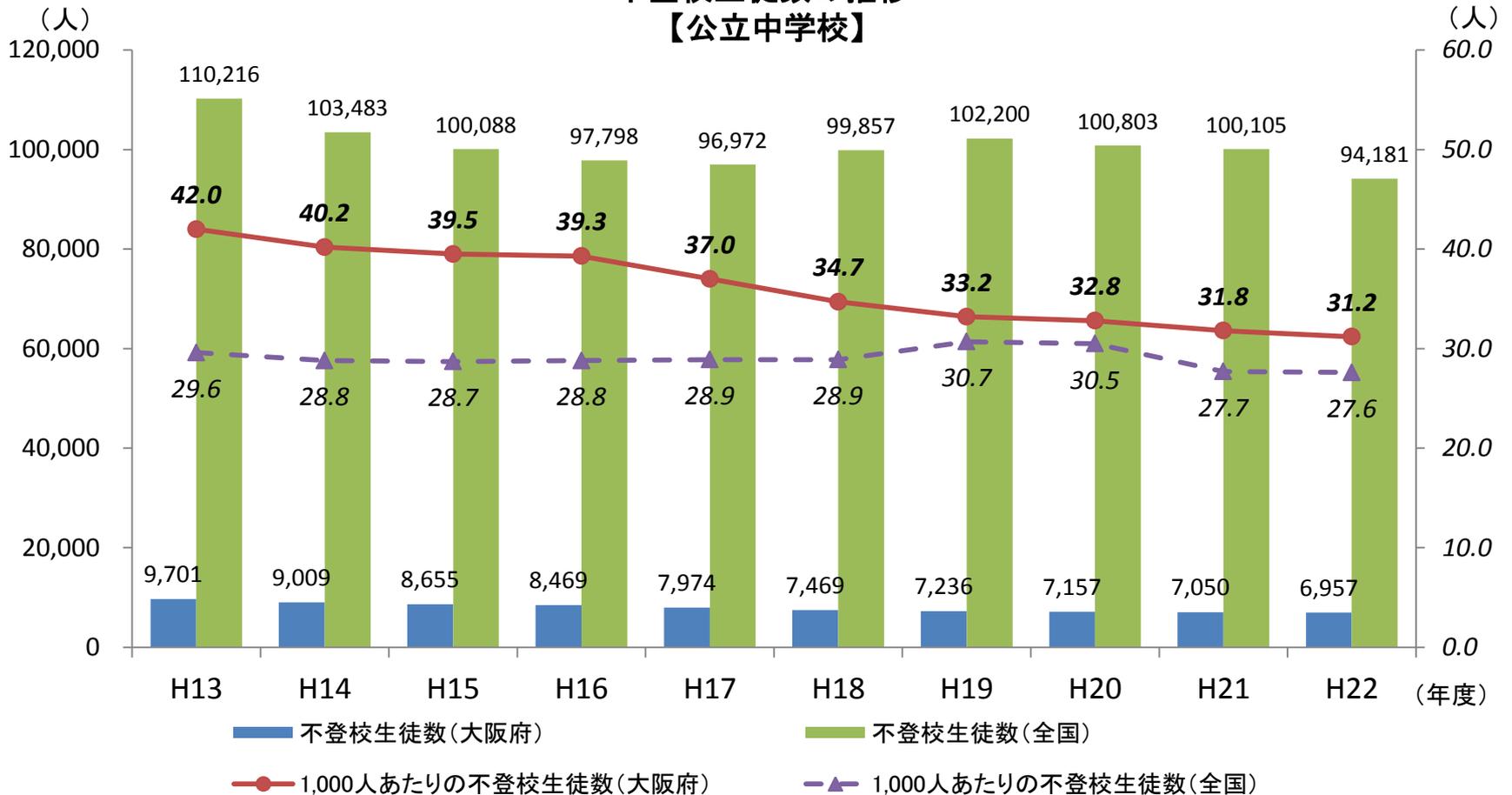
- 中学校における不登校生徒の割合が全国平均より高いという現状のもと、生徒一人ひとりの「学びの支援」という観点から学習の機会を保障
- 通信制高校への進学率は増加傾向にあるものの、他県に比べ公立の学校数は少ない
- 高校における不登校や中途退学の割合は全国平均よりも高く、それらのきっかけとなっている学業不振に対応する「学び直し」の機会を提供

<現状データ>

不登校の状況・中学校(全国・大阪府)

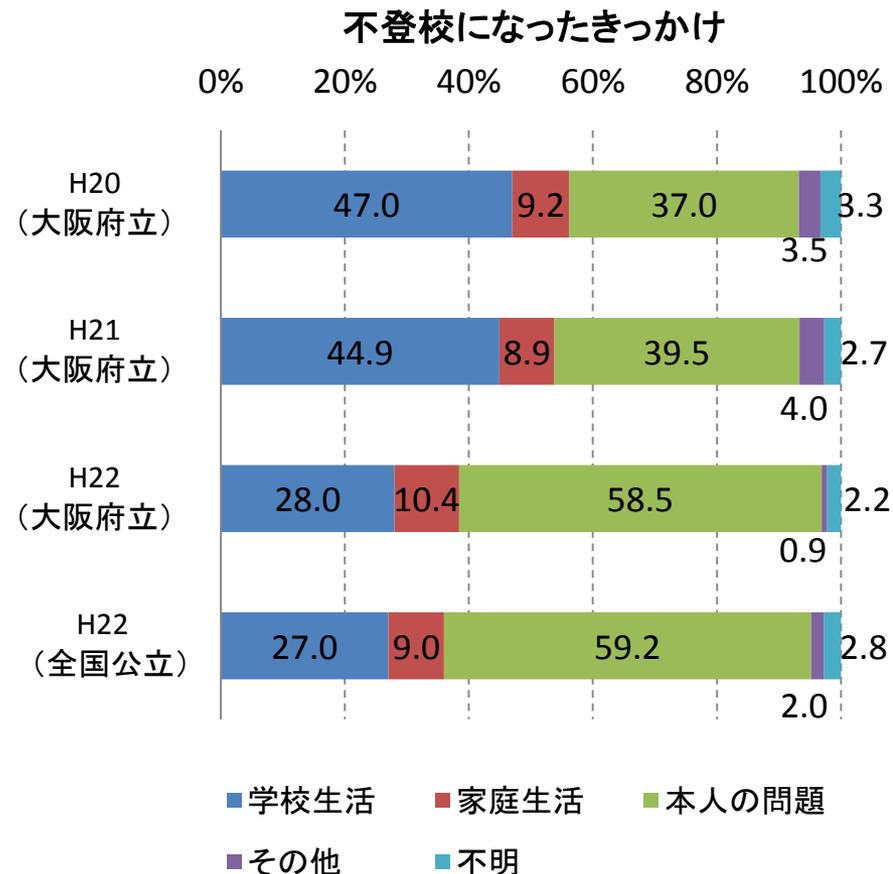
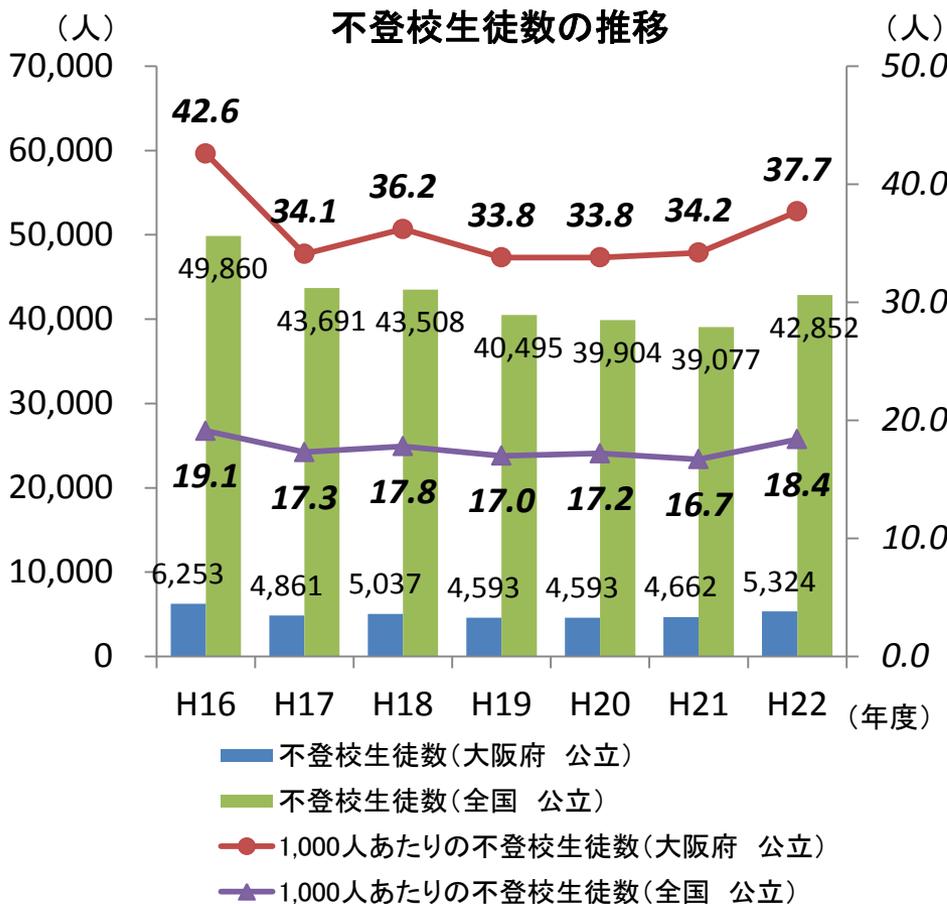
▶ 大阪府の不登校の割合は減少傾向だが、依然として全国平均を上回っている。

不登校生徒数の推移
【公立中学校】



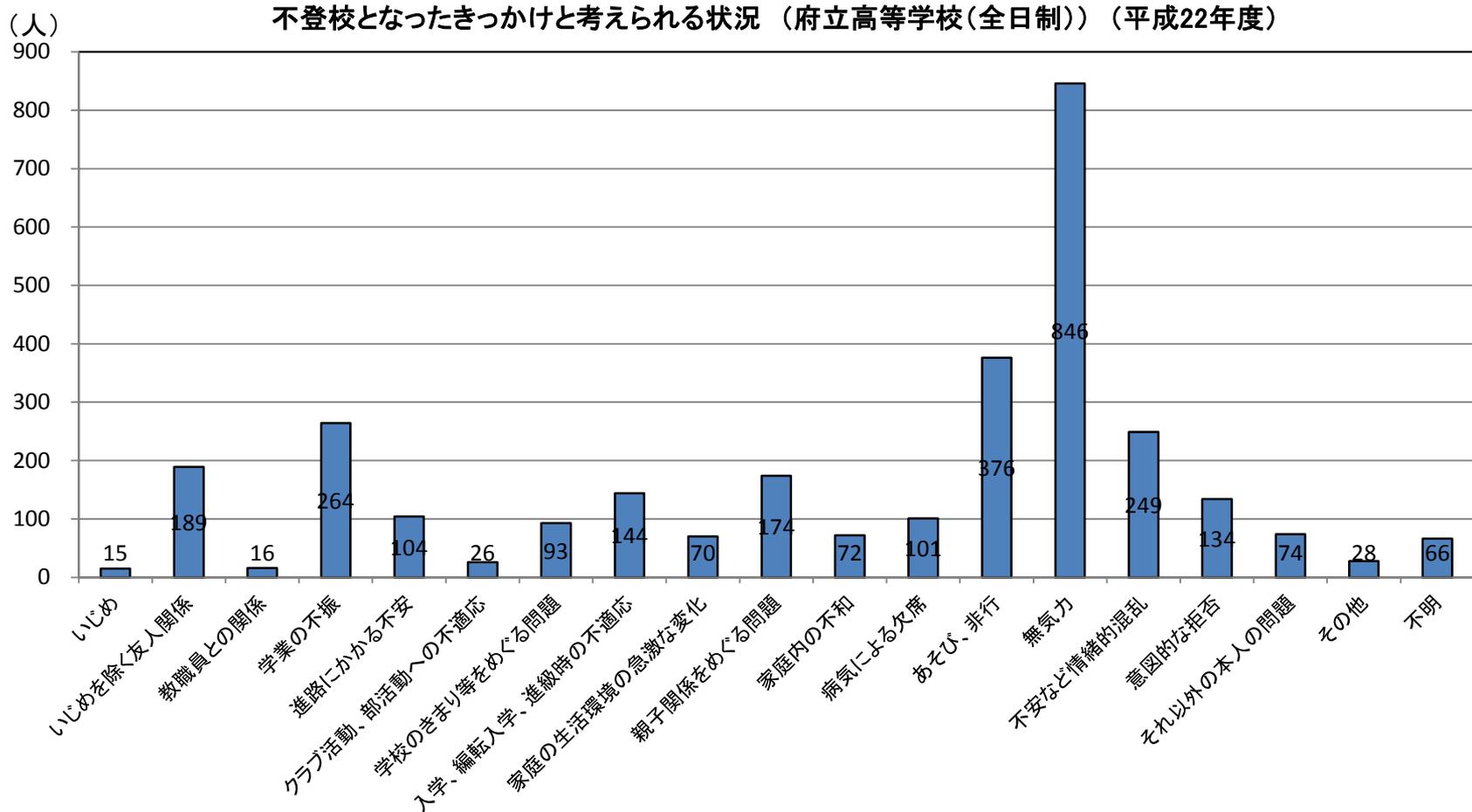
不登校の状況・高等学校①(全国・大阪府)

- 不登校生徒数は、全国・大阪府とも概ね横ばい。
- 大阪府の不登校生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- 不登校のきっかけは、大阪府では「本人の問題」に係る割合が増加傾向。



不登校の状況・高等学校②(大阪府)

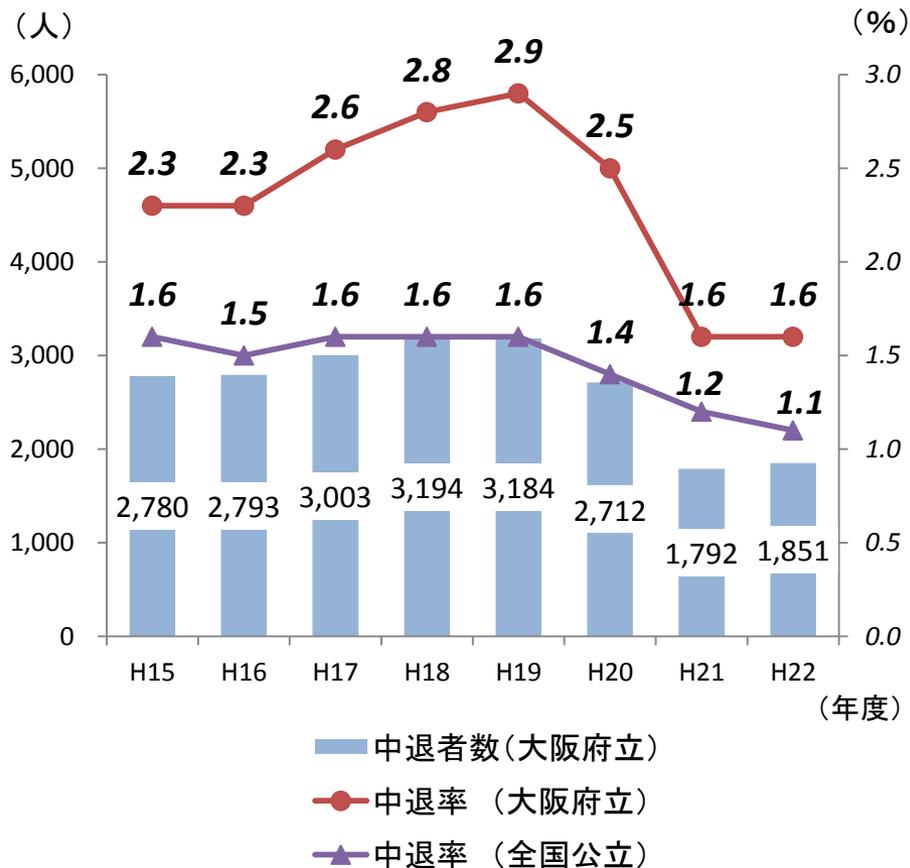
- 不登校のきっかけは、「無気力」(学習意欲の低下)の割合がもっとも多く、「学業の不振」なども含めた学習上でのつまずきに起因するものが多い。
- 次いで、「あそび、非行」などの生活環境でのつまずきや、「友人関係」、「親子関係」といった人間関係のつまずきに起因するものが多い。



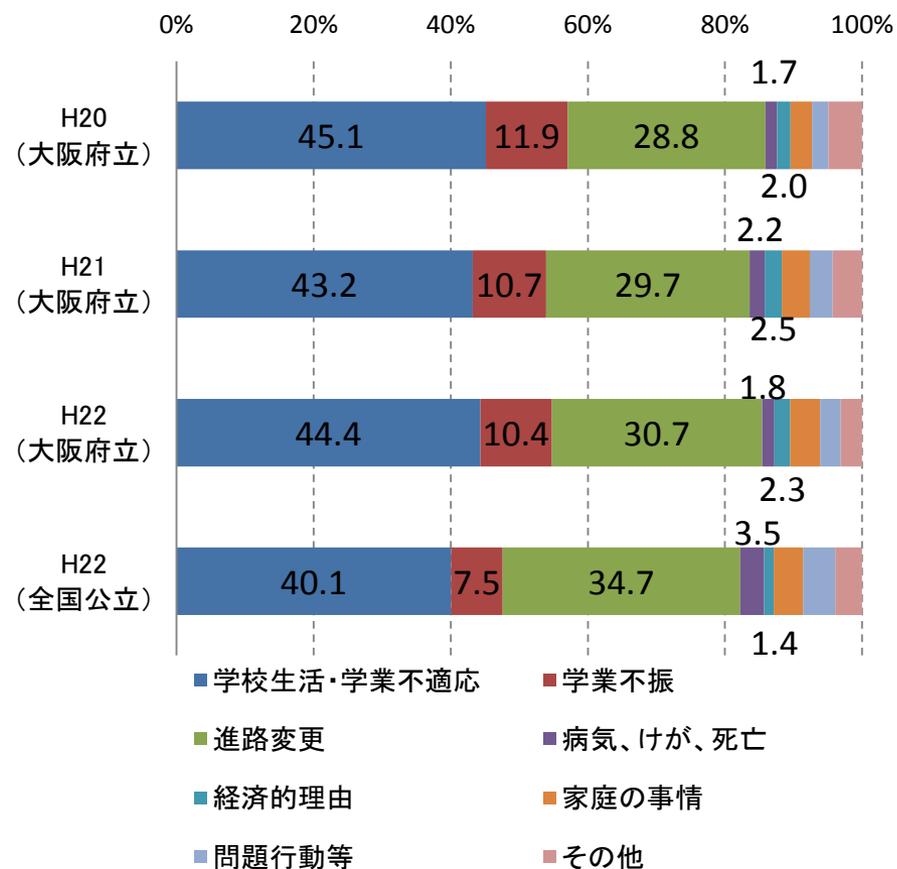
中途退学の状況①(全国・大阪府)

- 中退率は、全国・大阪府とも近年は減少傾向。
- 事由別では、大阪府は「学校生活・学業不適応」、「学業不振」の割合が全国と比べて多い。

中途退学者数及び中退率の推移(全日制)



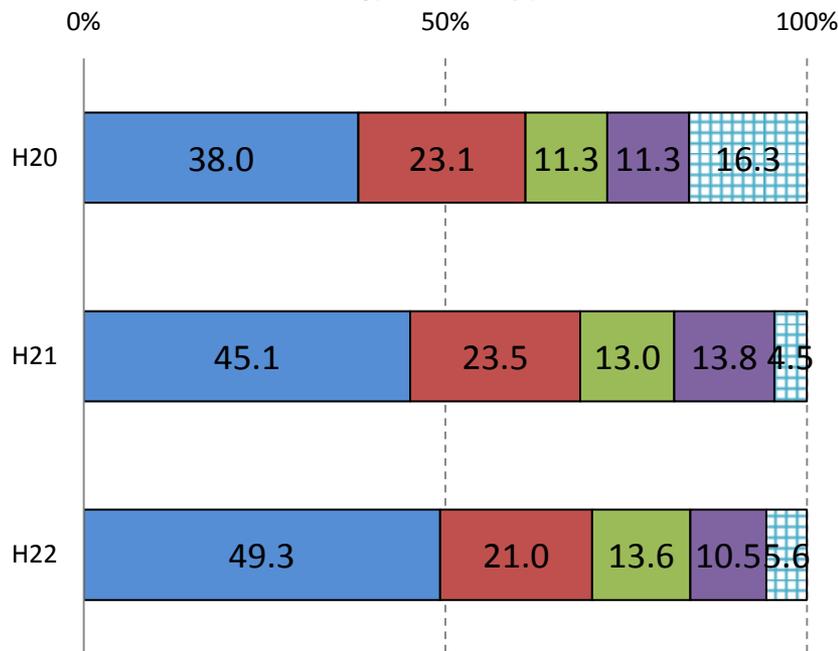
中退事由の割合の推移



中途退学の状況②(大阪府)

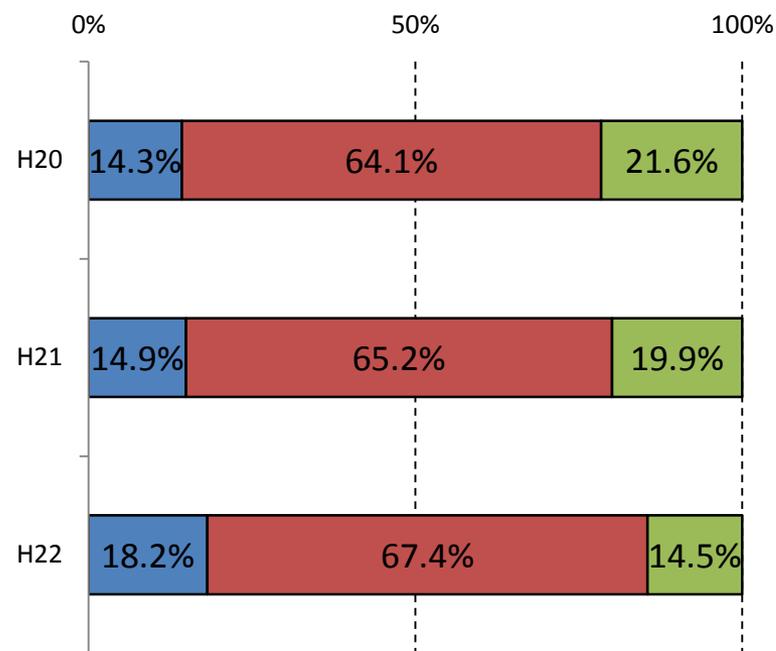
- 高校生活や授業に興味がないといった学習意欲の低下に関する割合が多い。
- 中途退学後での学習継続の割合が増加傾向にある。

学校生活・学業不適應の内訳の推移
(府立全日制)



- もともと高校生活に興味がない
- 授業に興味がない
- 人間関係がうまく保てない
- 学校の雰囲気があわない
- その他

中途退学後の動向の推移
(府立全日制)

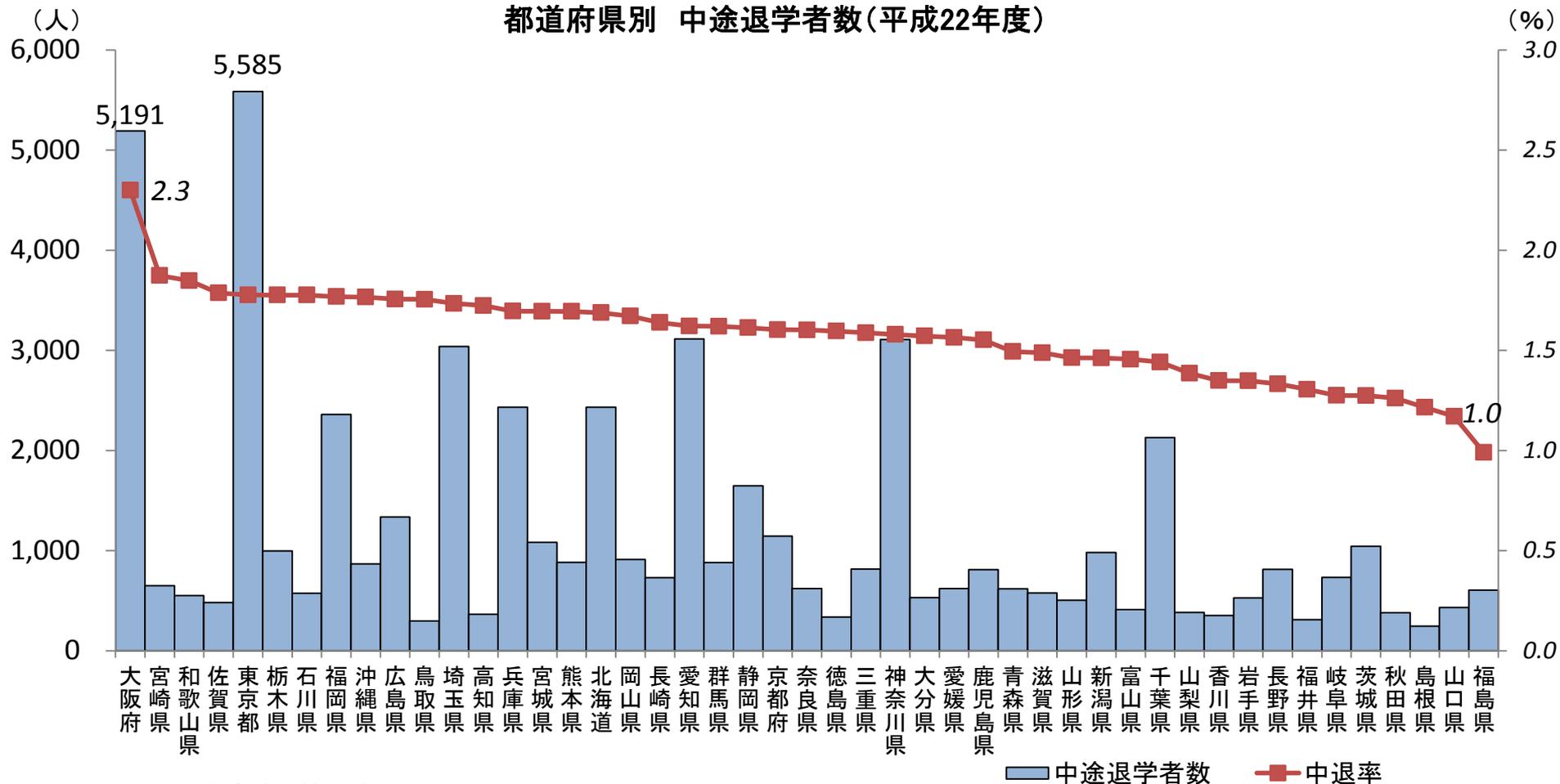


- 学習継続
(専修学校、高校再受験、大検受験)
- 働く
(就職、アルバイト)
- その他
(病気、死亡、結婚、家事)

中途退学の状況③(全国比較)

- 大阪府は、中途退学者数は全国で東京都に次いで多く、中退率は全国で最多。
(全国平均:1.6%)

都道府県別 中途退学者数(平成22年度)

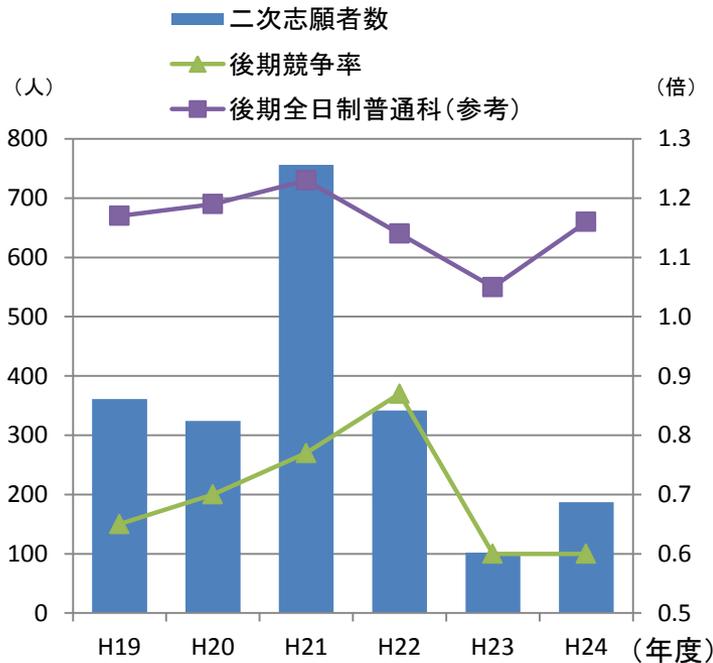


※国公立高等学校の計

夜間定時制の状況(大阪府)

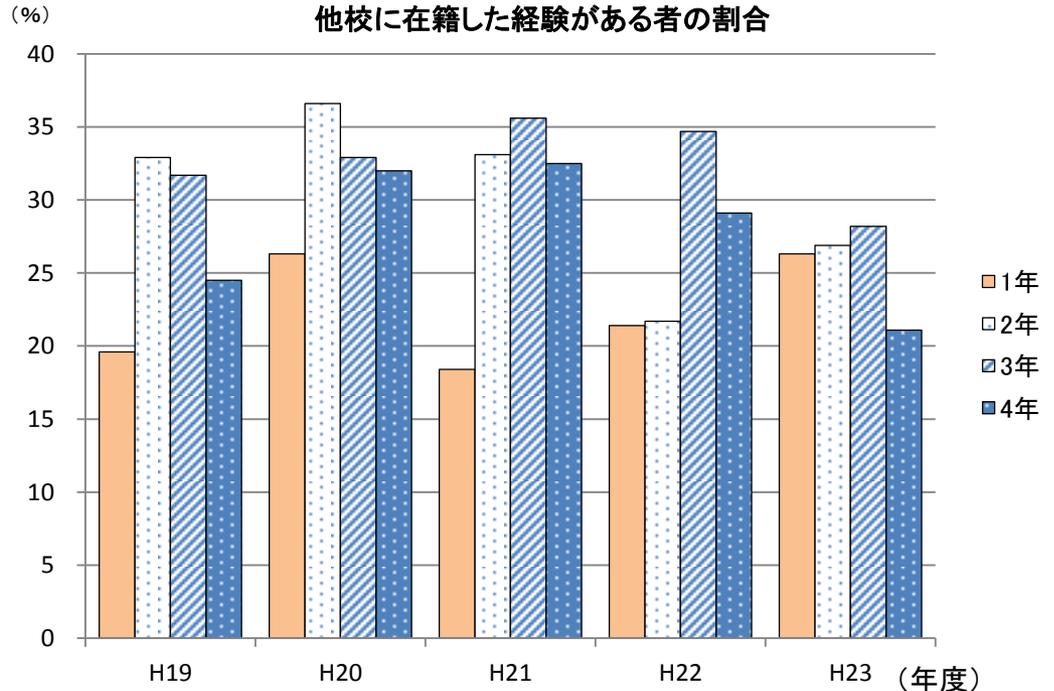
- 3月末の二次選抜(出願時点でどこの高校にも合格していないことが応募資格)における夜間定時制への志願者は、例年一定数あるものの、景気の動向や全日制の選抜結果の影響が大きい。
- 夜間定時制には、他校に在籍経験のある生徒が、一定数在籍。
(在籍生徒へのアンケート(「高等学校定時制の課程生徒の生活実態調査」)では、過去5年の平均在籍率は約28%)

夜間定時制(多部制単位制Ⅲ部を含む)の志願状況



※大阪府教育委員会調べ

夜間定時制(多部制単位制Ⅲ部を含む)の生徒で、他校に在籍した経験がある者の割合



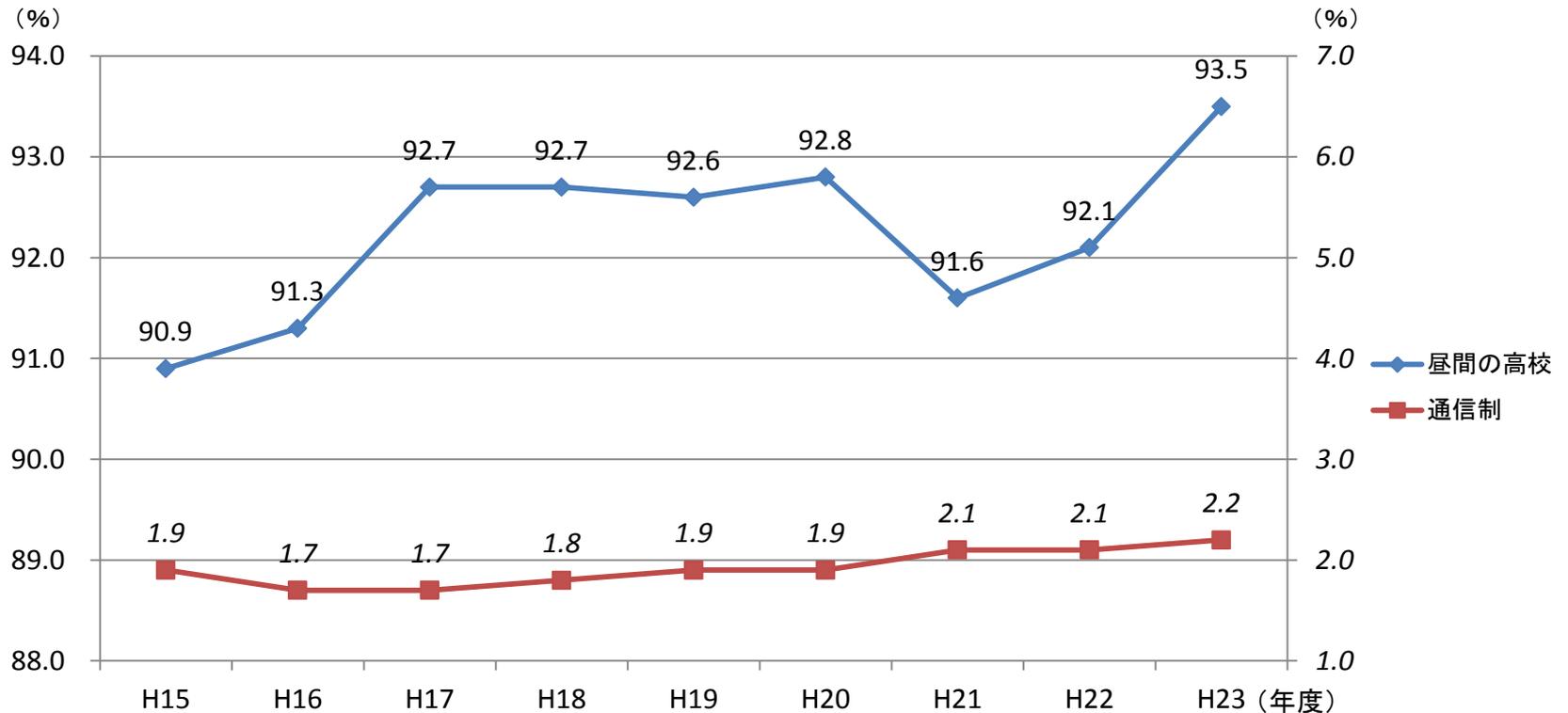
※大阪府教育委員会調べ(「高等学校定時制の課程生徒の生活実態調査」による)

通信制の状況(大阪府)

- 公立中学校卒業生全体では、昼間の高校への進学率は、景気の動向等の影響を受けて変動があるが、通信制高校への進学率は増加傾向。

公立中学校卒業生の「府内の昼間の高校(含 高専)」と「通信制の課程」への進学率

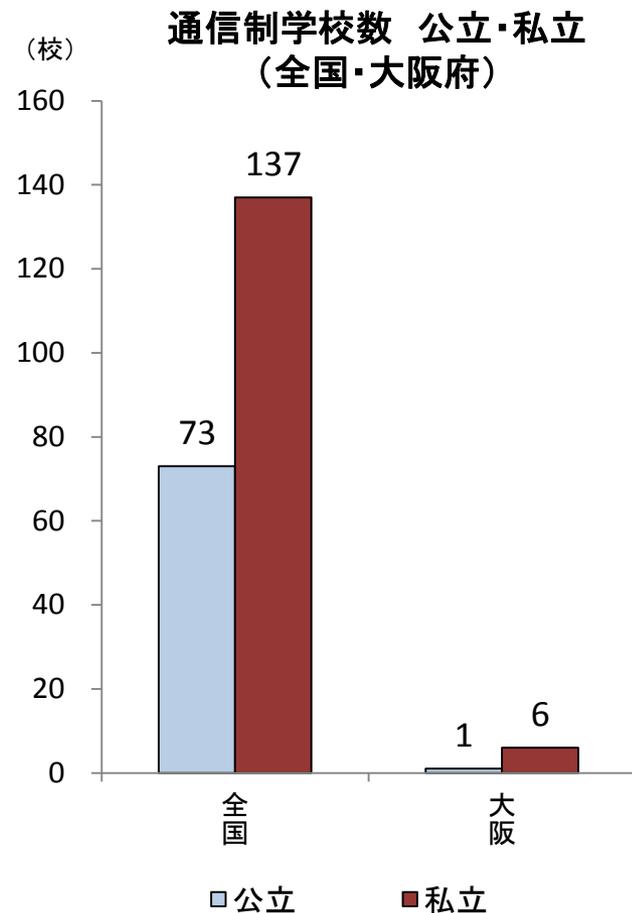
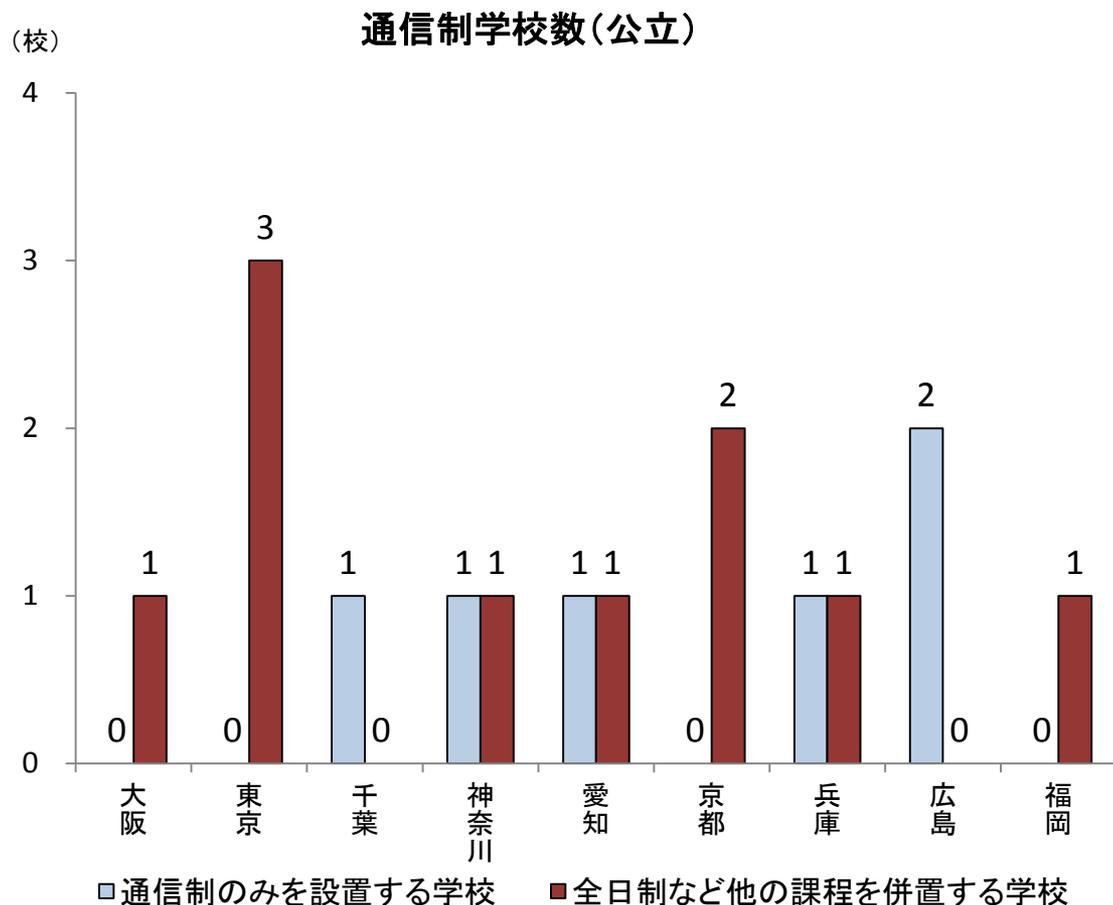
(注 公立・私立の合計数)



※大阪府教育委員会調べ

他府県の通信制高校数(大阪府)

➤ 大阪府は、他府県と比較して公立の通信制課程の高校が少ない傾向にある。



※他の課程を併置する学校を含む。

③ー1. キャリア教育の推進とチャレンジ精神の育成

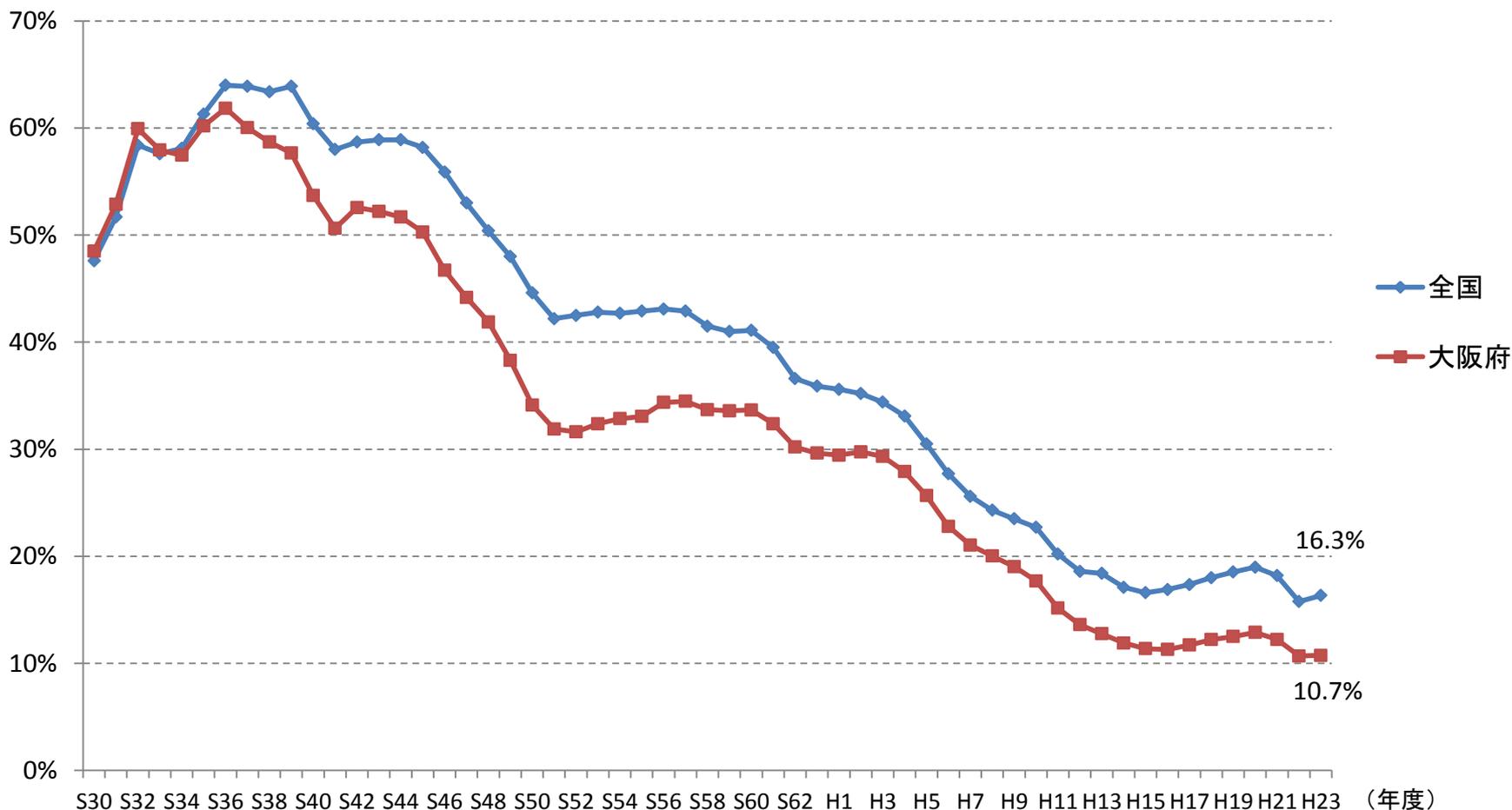
視点

- 低所得層や非正規雇用が増加傾向にあり、格差の増大や固定化、雇用環境の悪化が懸念される中において、社会の一員として自立して生きていくためには、豊かな職業観・勤労観が必要
- 「将来の夢や目標」「自尊心」に肯定的な子どもの割合が少ないことを踏まえ、新たなことに果敢にチャレンジする姿勢を育成

<現状データ>

高校卒業後の就職率の推移(全国・大阪府)

- 全体的な傾向は、全国・大阪府ともほぼ同じような増減傾向にあり、大阪府は全国に比べ就職率が低い傾向にある。

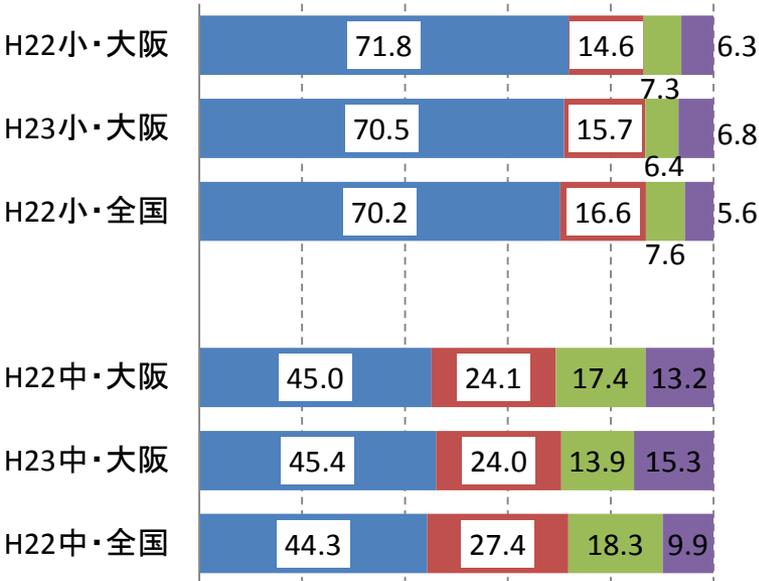


子どもの気持ち(全国・大阪府)

- 将来の夢を持っている子どもや自尊心のある子どもは、大阪府・全国とも中学生になると減少している。
- チャレンジする気持ちのある子どもは、小学生・中学生とも、全国平均より少ない。

＜将来の夢や目標を持っていますか＞

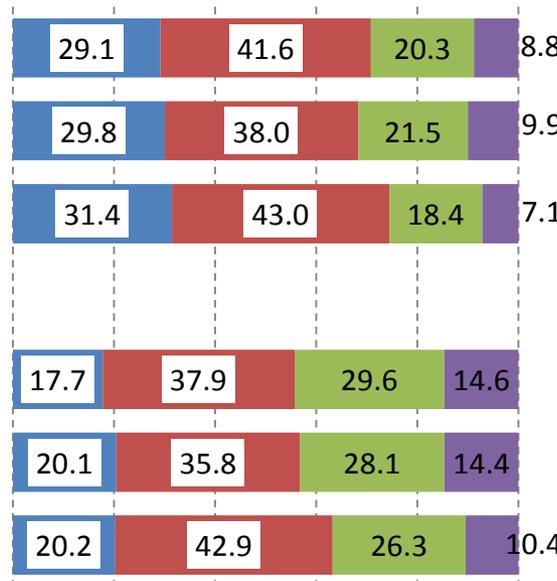
0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 持っている
- どちらかといえば、持っている
- どちらかといえば、持っていない
- 持っていない

＜自分には良いところがあると思いますか＞

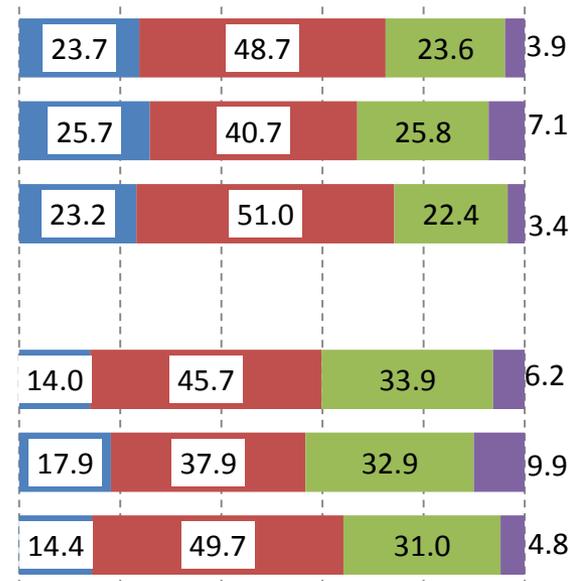
0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

＜難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか＞

0% 20% 40% 60% 80% 100%

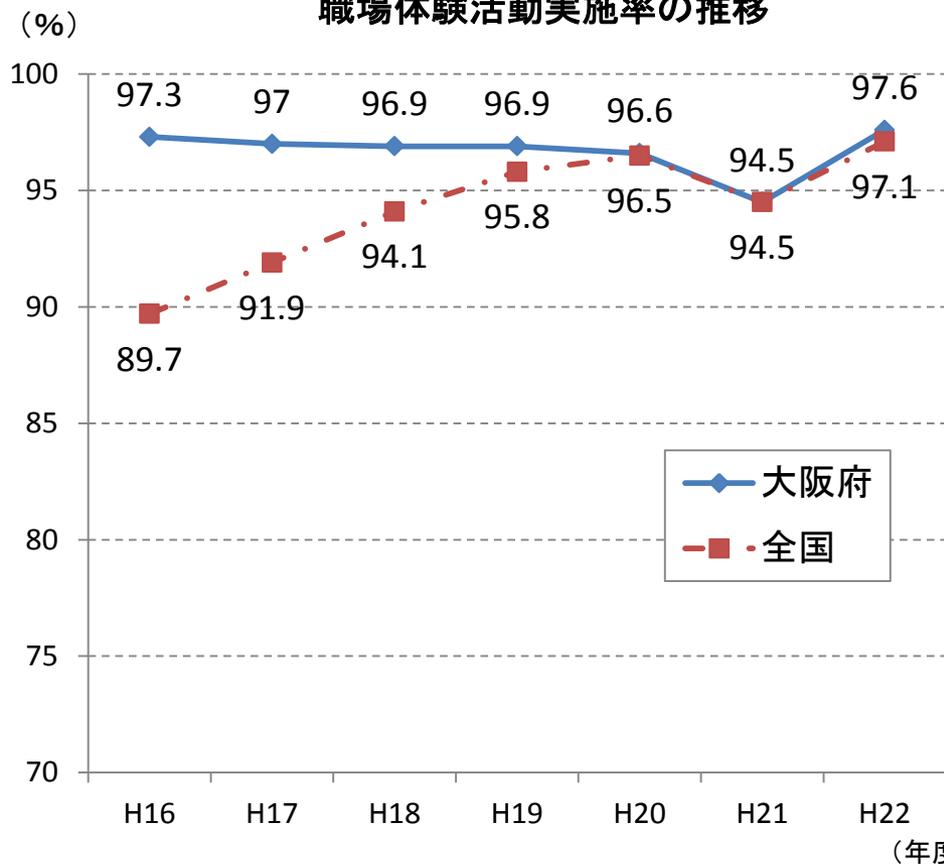


- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

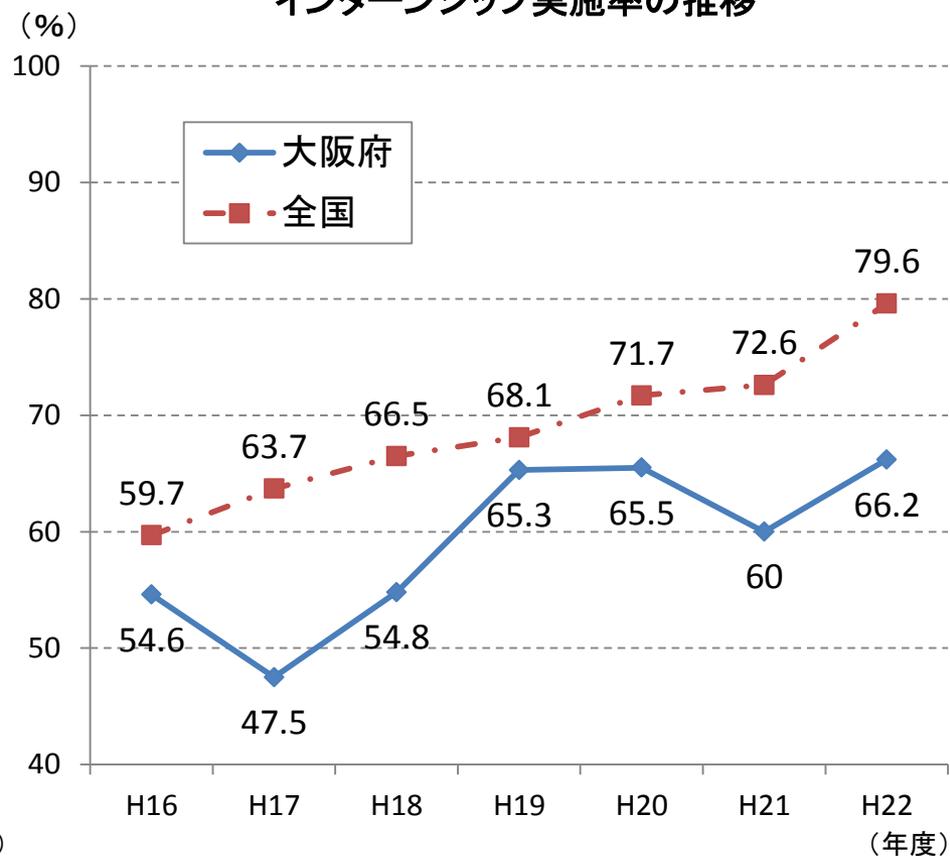
職場体験・インターンシップの実施状況(全国・大阪府)

- 中学校における職場体験活動の実施率は、全国平均を上回っている。
- 府立学校におけるインターンシップ実施率は、全国平均を下回っており、概ね65%程度で推移。

公立中学校における
職場体験活動実施率の推移



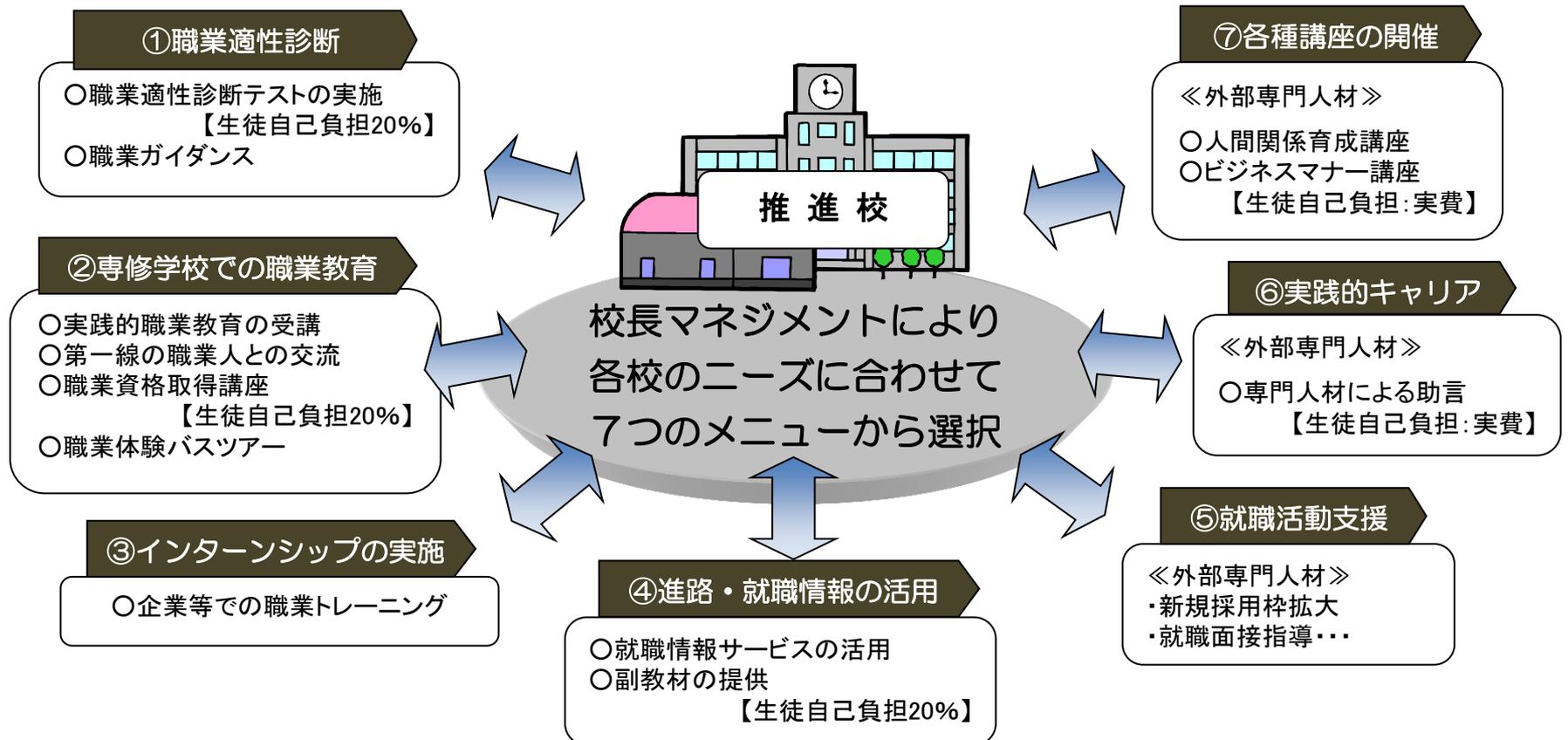
府立高校(全日制)における
インターンシップ実施率の推移



<現在の取組>

「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業

- 【概要】 高校の校長マネジメントにより、専門学校や企業、外部人材と連携して、各学校の生徒のニーズに応じた実践的なキャリア教育・職業教育プログラムを実践する。
 <<推進校:府立・私立 72校>>
- 【目的】 高校生の就職内定率の上昇、進路未定者の減少を図る。



「志(こころざし)学」

➤ 「志(こころざし)学」の学習目標

- ・生徒が豊かな情操や人間性を身に付ける
- ・生徒が将来、よき社会人として自立する
- ・社会についての理解や健全な判断力等を身に付ける
- ・地域や社会の発展に寄与する態度をはぐくむ

➤ 実施のポイント

- ・全校実施；平成23年4月～
- ・アプローチ例 ； キャリア教育、国際理解教育、情報教育、障がい者理解教育、環境教育、法教育
- ・実施の形態 ； 「総合的な学習の時間」「特別活動」「学校設定科目」などを中心に取り組み卒業までに1単位時間(35時間)学習

➤ これまでの取組事例について

- ・法律の基礎や司法の仕組みを学んだうえで、模擬裁判を実施することにより、自分の生活に関わるものであるという実感をもたせるとともに、能動的、主体的に法制度や司法制度に関わる姿勢を養う。
- ・地域福祉の現状を学び、体育館で実施する「秋祭り」の企画・運営を通して交流を行うことにより、地域福祉における「秋祭り」の位置づけを考える。
- ・「大阪企業家ミュージアム」での体験学習の中で、実在の企業家たちが持つ高い志やチャレンジ精神、人生観に触れさせることで、今後の自身のライフプランをイメージさせるとともに、社会の発展に寄与する態度をはぐくむ。

③ー2. 自立を支援する教育カリキュラム

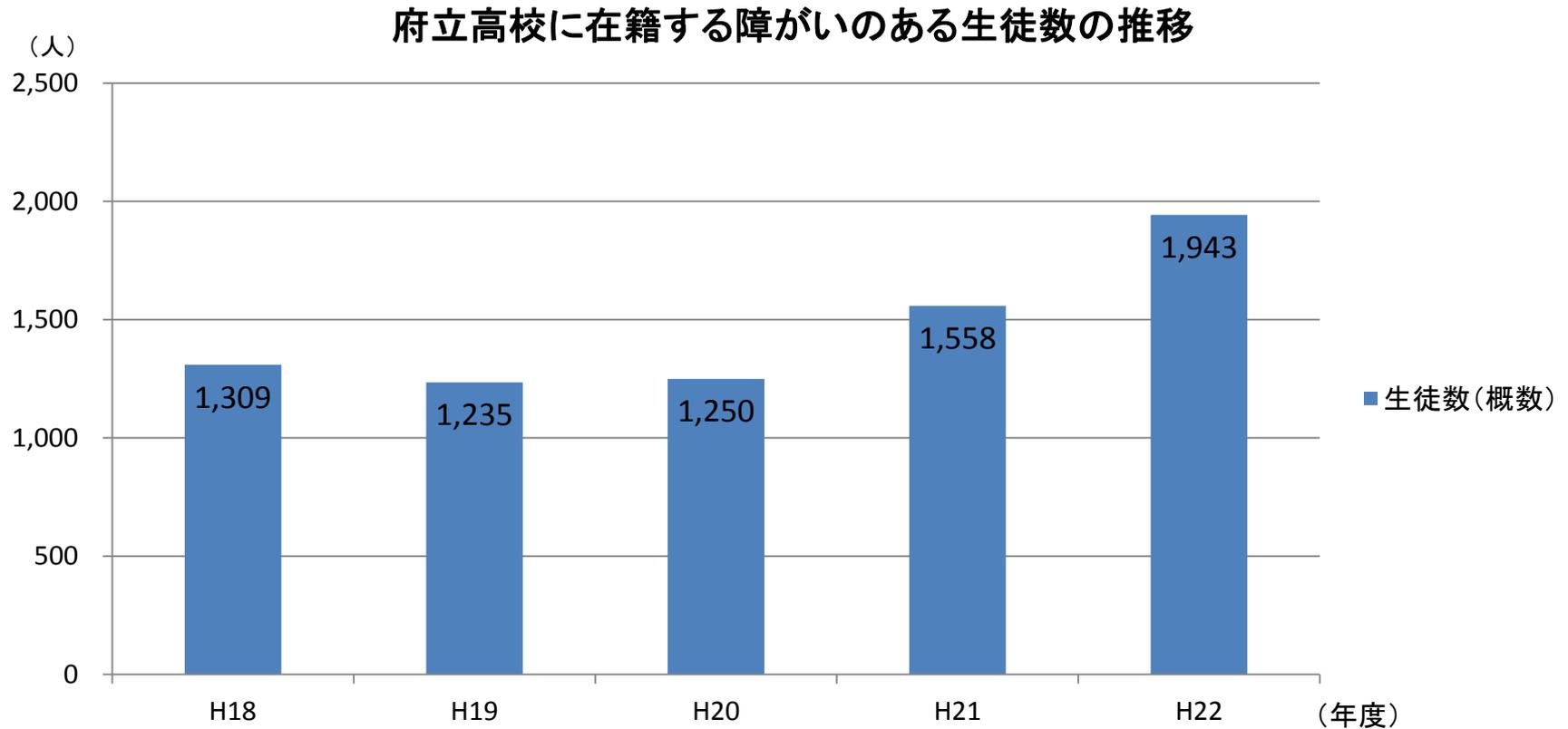
視点

- 障がいのある生徒が増加傾向にあるなど、多様な生徒が在籍する中、「互いの違いを認め合う」、「ともに学びともに育つ」教育を一層推進
- 全国平均を上回る不登校や中途退学の実態を踏まえ、一人ひとりにしっかり向き合う教育内容を充実

<現状データ>

障がいのある生徒数の推移(大阪府)

- 府立高校に在籍する障がいのある生徒数は年々増加している。



<現在の取組>

自立支援推進校・共生推進校について

➤ 高等学校における「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

- 大阪府では、これまで、ノーマライゼーションの理念のもと、すべての幼児児童生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育を基本とし、その可能性を最大限に伸ばし、将来、自らの選択に基づき地域で自立した生活を送ることができるよう、一人ひとりの障がいの状況に応じた教育を推進。
- このような中、高等学校における知的障がいのある生徒の学習機会の充実を図るため、「自立支援推進校」「共生推進校」の取組みを平成18年度から制度化。

自立支援推進校

- ・ 知的障がい生徒自立支援コースを設置している高校。
- ・ 高等学校のカリキュラムや授業内容を工夫し、知的障がいのある生徒が生き生きと学び、障がいのあるなしに関わらず、ともに高校生活を送り交友を深めていくことをめざす。

※府立高校9校に設置

- 園芸 ○ 阿武野 ○ 柴島
- 枚方なぎさ ○ 八尾翠翔 ○ 西成
- 松原 ○ 堺東 ○ 貝塚

共生推進校

- ・ 職業学科を設置する知的障がい高等支援学校の共生推進教室を設置している高校。
- ・ 週1回、高等支援学校で職業に関する専門教科を学ぶなど、両校の連携協力のもと、高等支援学校の生徒が高等学校の生徒とともに学び交友を深めていくとともに卒業後の社会的自立をめざす。

※府立高校4校(平成25年度より5校)に設置

- 枚岡樟風 ○ 千里青雲 ○ 芦間
- 久米田 ○ 北摂つばさ(H25年度～)

大阪府高等学校適応指導教室

➤ 取組の概要

■設置時期：平成23年6月20日、場所：府教育センター附属高等学校、運営：府教育センター

■ねらい

- ・不登校状態にある府立高校生への教室復帰支援
- ・不登校生徒に対する支援プログラムの開発及び普及

■対象生徒：定員20名

➤ 支援内容について

■専門家のアセスメントにもとづく支援計画により、個に応じた支援を実施

- ・学習支援：在籍校の教材を中心に教育センターの補助教材等を活用
- ・心理支援：継続的カウンセリング、心理支援ワーク、体験活動等

➤ 平成23年度の入室生徒の状況について

問合せ	見学	入室	復帰	復帰率
67件	26件	19人	14人	74%

■生徒の変化

- ・学習意欲が向上してきた。対人関係の持ち方において自信が回復してきた。
- ・家庭にこもった状態から、入室をきっかけに徐々に外出できるようになった。
- ・定期考査を教室または別室で受験できるようになった。
- ・別室登校ができるようになった。教室にも入れるようになった。等

中退防止の取組状況

➤ 府立高等学校中退問題検討会議(平成19年度～21年度)の開催

- ①中高連携 ②人間関係作り ③基礎学力の充実 の3点を重点的な取組みの方向性として整理。
⇒検討会議の提言に基づき、中退防止の取組みのガイドラインを示す冊子として集約した『中退の未然防止のために ～ 1年生を中心とした取組みの要点と具体例 ～ 』を作成、配付
(平成22年3月)



➤ 中退防止コーディネーターの配置

- 平成21年度:41校、22年度:36校、23年度:37校、24年度:35校
- 中高連携及び中退防止に関する校内組織の中心
- 中退防止コーディネーター連絡協議会を開催し、各校の課題や効果的な取組みに関する情報を共有

➤ 中退防止フォーラム

- 効果をあげている学校の実践例や、学識経験者・専門家の意見等を紹介し、情報を共有するとともに、今後の指導の在り方等についての研究を深める。

➤ 教育相談体制の充実

- スクールカウンセラーの配置(平成23年度～) ・教育相談研修生の派遣(平成21年度～)

④. つながりをはぐくむ学校づくり

視点

- 学びのニーズが多様化する中、学校力をより一層高めるために「地域」「外部機関」とのつながりを強化
- 学校外の教育資源の活用による多様な学びの場を提供

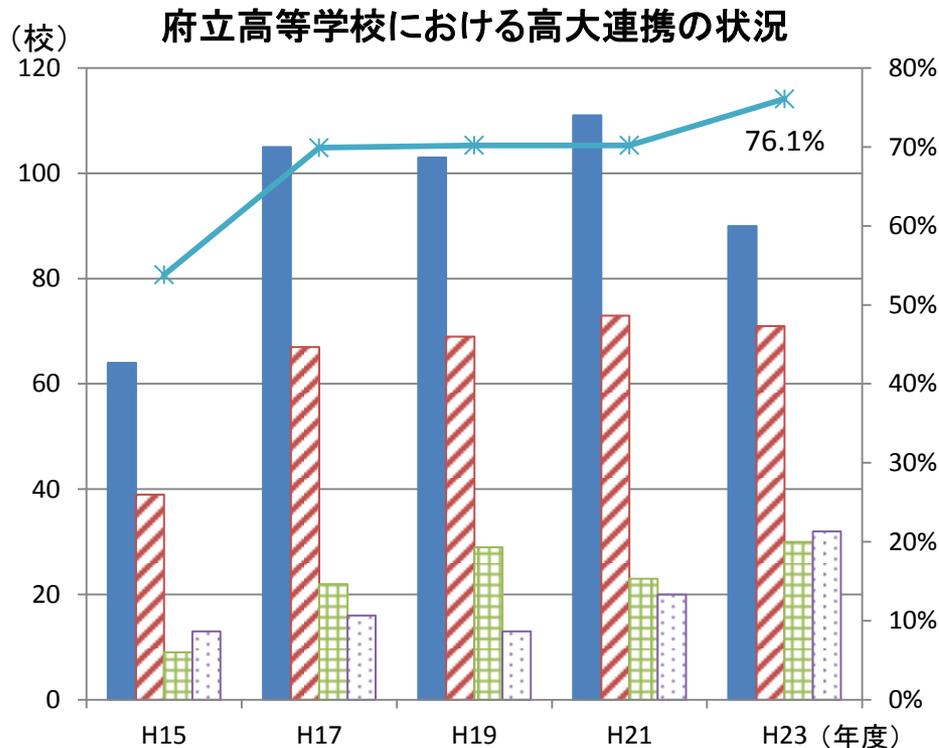
<現在の取組>

地域との連携事例

- 「里山ボランティア」(地域と連携した里山保全活動)の取組
- 「商店街横断幕アート」等の豊中市との連携による取組
- 環境・農業学習など町内の幼小中学校との交流活動
- 地域の保育所・幼稚園・老人福祉施設での実習、交流
- 地域清掃・周辺緑化・環境保全活動
- 淀川区の防犯推進協議会への協力(防犯壁画、防犯パトロール放送)
- 菜の花プロジェクトの一環として地域の廃油回収
- 地域NPOや地元ロータリークラブの人材を講師とした講演会・集中講座の実施

高大連携の状況(大阪府)

- 府立高校における高大連携実施は年々増加しており、76.1%の高校で実施している。
- 府教委においては、22大学と包括協定を締結している。



- 大学提供の講義や講演の受講
- ▨ 大学生等による教育活動支援
- ▤ 大学提供の教員研修
- ▧ その他
- *— 実施率

府教育委員会との包括協定締結大学 (平成24年7月現在)

大学名	
大阪教育大学	立命館大学
関西大学	大阪学院大学
近畿大学	関西外国語大学
神戸親和女子大学	関西福祉科学大学
帝塚山学院大学	大阪樟蔭女子大学
大阪大谷大学	大阪工業大学
大阪府立大学	大阪体育大学
武庫川女子大学 同短期大学部	大阪総合保育大学 大阪城南女子短期大学
追手門学院大学	大阪市立大学
プール学院大学 同短期大学部	大阪成蹊大学
京都大学	大阪大学

専門学校等との連携の状況(大阪府)

➤ 府立高校では、様々な科目で専門学校等との連携を図っている。

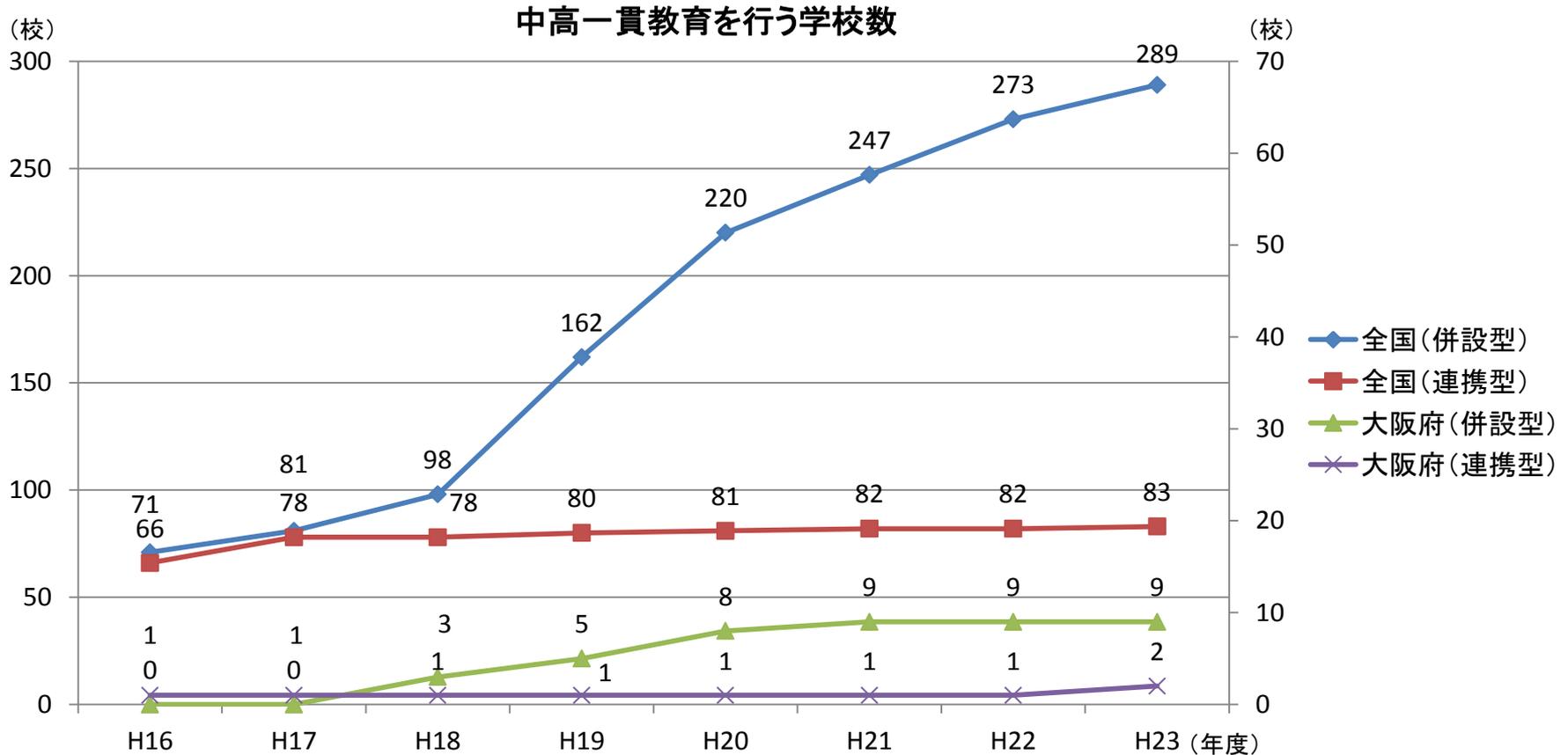
平成23年度における専門学校等との連携一覧

学校名	高校における教科・科目 (学校設定教科・科目を含む)	専門学校等における対応科目
A校	教養	医療福祉実習
B校	家庭	家庭看護・福祉
C校	工業	パソコンゲーム制作
D校	商業 美術 水産 音楽 アート・カルチャー	ビジネス情報 映像表現 課題研究 声楽、器楽 他 食の文化、メイク・ネイル基礎 他
E校	アート 体育 音楽 美術 デジタルアート 環境 家庭 コミュニケーション	ライティング実習 他 ダンス 演奏法 他 映像メディア表現 他 ビジュアルデザイン 他 自然環境技能基礎 食文化 他 マナー・コミュニケーション
F校	工業	ものづくり基本
G校	チャレンジタイム	総合美容、福祉基礎、 保育基礎、調理基礎 他

<現状データ>

中高一貫教育の状況(全国)

➤ 全国では、併設型中高一貫校が急激に増加している。



※国公立の計

⑤. 学習環境の整備

視点

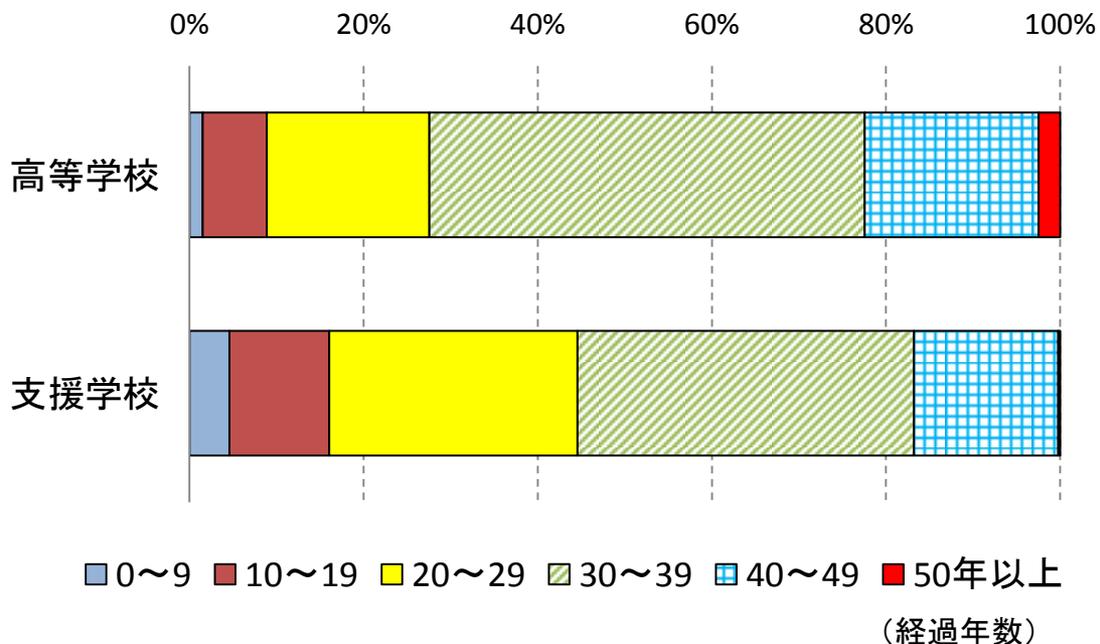
- 建築後30年を経過する建物が7割を超えるという現状にあって、学習環境の改善を検討
- 学習に対する生徒の理解を一層促すため、ICT機器の整備を推進

<現状データ>

校舎等の施設・設備の状況(大阪府)

➤ 府立高校の建物の約7割が建築後30年を経過している。

府立学校における
校舎・体育館等の築後経過年数面積の割合



府立学校における設備の整備状況

		高等学校	支援学校
耐震化	全棟数	1,136	174
	実施済み	881	138
	耐震化率	77.6%	79.3%
空調機器	全室数	12,628	2,709
	設置済み	6,439	1,752
	設置率	51.4%	64.7%
エレベーター	全校数	138	25
	設置済み	79	25
	設置率	57.2%	100%

※平成24年4月1日現在

ICT化の状況(全国・大阪府)

- ▶ 大阪府は、教育用コンピュータの整備は全国を上回っているが、電子黒板の導入については、全国を下回っている。

公立高等学校におけるICT環境の整備状況

	教育用コンピュータ 1台当たりの 生徒数	一学校あたりの 電子黒板の 整備台数
大阪府	3.7	0.7
全国	5.0	2.1

出典:文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(平成23年8月)